

麻に つるる



ノルマンディー地方のリネン畑 photo by T. Iida

日本麻紡績協会

ASABO / Japan Linen, Ramie & Jute Spinners' Association

麻につる

目次

・ 業界レポート	2018年リネン（亜麻）事情	・・・	2
	2018年ラミー（苧麻）事情	・・・	3
・ ミラノ・ウニカ出展・出張レポート		・・・	5
出展各社のコメント	株式会社麻絲商会 滋賀麻工業株式会社 株式会社大長 帝国繊維株式会社		
・ プルミエールビジョンレポート		・・・	8
・ 中国麻紡織行業協会 紹介 CBLFTA		・・・	10
・ 2017 中国亜麻大会レポート（上海）		・・・	11
・ 会員企業紹介	ミマス株式会社	・・・	12
	KB ツツキ株式会社	・・・	13
	越前屋多崎株式会社	・・・	14
	株式会社おおまえ	・・・	15
・ スペシャルレポート	Safilin Mr.Denoyelle	・・・	16
・ トスコ株式会社 創立100周年		・・・	18
・ 会員企業一覧		・・・	20
・ 会員企業ネットショップ URL 一覧		・・・	21

業界レポート

2018年リネン（亜麻）事情

□ 欧州リネン

2017年リネン原料（FLAX）の西欧主要産地であるフランス、ベルギー、オランダの3カ国での作付面積合計は前年度より30,000ha増加し、140,000haを計上した。

しかしながら、昨年の生育期である6月の乾燥が成長に大きく影響し、収穫量は昨年の20%程度減量となり、価格が高騰し過去最高値に届く水準となっている。

<5ヵ年作付面積、原料・原糸生産量、価格推移>

主要3ヶ国 (フランス・オランダ・ベルギー)	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
作付面積（ヘクタール）	81,200	95,000	110,000	140,000	130,000
原料生産数量（トン）	123,500	130,000	120,000	120,000	110,000 (推定値)
原料価格（€ / Kg）	2.1	2.35	2.98	3.0	3.5 (推定値)

* 原料生産高：Long fibres - Scutched line

* 2018年度の数字は予測数値

□ 中国リネン

中国リネン紡績工場は堅調に推移。リネン潤紡績、潤紡ヘンプも含めて約100万錠稼働と言われているが、実際稼働率60% / 60万錠程度と推定。

中国潤紡糸生産高は2017年95,000万トン程度。2018年は欧州フラックス原料の値上げや良い品質の原料が少ない為、紡績歩留まりが低下している模様。定番の40/- 60/- 原糸は原料不足及び労働力不足により値上げは確実の見込み（現在のところ昨年対比約20%アップ）。



ノルマンディー地方のリネン畑



ノルマンディー地方のリネン畑

業界レポート

2018年ラミー（苧麻）事情

1. ラミーの栽培状況について

ここ数年来の報告同様ラミー栽培に関しての明るい情報は入ってきていない。栽培面積に関しては減少とはなっていないものの、内容的には楽観できる状態ではない。現在のラミー栽培は、ラミー栽培が好きな農家が行っているようであるが、他の農作物のような最低保証が無く、栽培意欲がなくなりつつある。また、農民の高齢化が進んでいる事が大きな問題として浮上しており、若手にとって魅力的な農作物にする事が重要な課題となっている。

現状、抜本的な打開策とはなっていないが、一部の地方政府が産業振興の為、ラミー栽培を推進している。この様な動きが各地へ波及することを期待する。

2. ラミーの栽培面積及び生産量について（推定）

栽培面積は約5万畝（3,333Ha）と推測され、昨年同程度と思われる。

その主要産地は四川省で約3万畝（2,000Ha）。その他は湖南省、湖北省、江西省、安徽省に散在しているが、正確な面積は考証できない。

情報として、湖南省と湖北省の面積が若干増えている模様で、今後に期待したいが、他の地域では依然減少傾向にあり、予断を許さない状況が今後も続くと思われる。

最も懸念されるのは畑の管理状態で、仮に栽培が再開されても即出来高につながらない可能性大であることが予想される。

生産量については、5万畝で3回刈取りを行なえば3,000tの計算であるが、実際には年2回の2,000t前後と思われる。

3. 原草価格について

2016年から2017年にかけて大幅な値上がりがあり、高止まり状態が続いていたが、2017年後半から2018年にかけて再び上昇している。

農家と加工業者の間で激しい駆け引きが行なわれているが、今のところ農家の力が圧倒的に強く、ラミーの市場性より他の農産物との比較で原草価格が決まっている状態。

ここにきてようやく農家の生産意欲が向上しつつあるが、増量による価格ダウンへの道は険しそうな状態になっている。

4. 2018年の見通しについて

現時点では現状の厳しい環境が画期的に改善されるとは考え難い。

市中の原草在庫からすると約10年前は4万tと推定されたが、今は2千t程度と思われ、完全に売り手市場。但し中国の環境政策による厳しい排水処理指導の影響で、生産可能な精練工場は2社になっており、買い手も極端に減っている。このような状態が近い将来に与える影響は予想がつかない。

伝統産業であるラミー栽培の危機的状況について中国麻行業協会も政策的な栽培面積拡大、機械化などを政府に働きかけてはいるが、農家の意欲が一番のカギであり、各社とも個々の対応策を模索しつつ、市場動向を注視している。

亜麻・苧麻統計表

(単位：千円)

品目	輸入糸					
	亜麻糸		苧麻糸		計	
平成年(1～12月)	数量 (t)	金額	数量 (t)	金額	数量 (t)	金額
平成 20 年	972	1,078,211	271	240,994	1,243	1,319,205
平成 21 年	805	752,842	247	198,107	1,052	950,949
平成 22 年	903	762,908	298	249,500	1,201	1,012,408
平成 23 年	1,315	1,243,565	338	269,174	1,653	1,512,739
平成 24 年	1,172	1,099,260	262	232,549	1,434	1,331,809
平成 25 年	1,574	1,730,654	294	327,287	1,868	2,057,941
平成 26 年	1,452	1,826,471	315	380,177	1,767	2,206,648
平成 27 年	1,512	2,149,292	307	448,620	1,819	2,597,912
平成 28 年	1,178	1,410,512	215	278,070	1,393	1,688,582
平成 29 年	1,294	1,490,800	220	299,854	1,514	1,790,654

(注) 財務省日本貿易統計による。

(単位：千円)

品目	輸入織物						輸入ハンカチ	
	亜麻織物		苧麻織物		計		亜麻・苧麻ハンカチ	
平成年(1～12月)	数量 (千㎡)	金額	数量 (千㎡)	金額	数量 (千㎡)	金額	数量 (千枚)	金額
平成 20 年	7,858	2,569,593	1,053	234,836	8,911	2,804,429	179	71,865
平成 21 年	6,224	1,769,982	995	275,402	7,219	2,045,384	331	62,549
平成 22 年	6,244	1,827,638	618	178,334	6,862	2,005,972	219	32,372
平成 23 年	6,954	2,351,660	928	247,210	7,882	2,598,870	114	25,943
平成 24 年	6,702	2,330,368	646	204,931	7,348	2,535,299	124	36,842
平成 25 年	7,134	2,878,201	717	239,543	7,851	3,117,744	81	40,658
平成 26 年	7,365	3,236,254	687	274,121	8,052	3,510,375	85	44,298
平成 27 年	6,822	3,258,646	796	289,496	7,618	3,548,142	87	38,013
平成 28 年	7,642	3,037,204	640	219,255	8,282	3,256,459	83	32,654
平成 29 年	7,624	3,019,338	605	212,452	8,229	3,231,790	86	36,624

(注) 財務省日本貿易統計による。

ミラノ・ユニカ出展・出張レポート

<概要>

ミラノ・ユニカは仏 P.V. (プルミエール・ビジョン) と双璧をなし、高付加価値を提案し、世界中の素材調達バイヤーが集う世界 2 大生地見本市と位置付けされている。

素材分野での‘もの作り大国イタリア’を保持する為、海外からの出展は日本と韓国だけとなっており、日本企業は「The Japan Observatory at 2019SS」内に 34 社が出展。

主催：JETRO（日本貿易振興機構）、JFW（日本ファッションウイーク推進機構）

後援：経済産業省、日本繊維産業連盟

日時：2018 年 2 月 6 日（火）～2 月 8 日（木）3 日間

場所：イタリア／ミラノ RHO FIERA MILANO

出展：日本麻紡績協会 4 社共通ブース

（株）麻絲商会、滋賀麻工業（株）、（株）大長、帝国繊維（株）

<総括>

今回はジャパンプースの展示会場内の位置がよく昨年よりも来場者が増え、また展示ブースもすべてオープンにし、顧客が入りやすい方法に変更したのが功を奏しました。また 4 社合同のブースにすることにより、展示ブースに迫力が出、スペースもゆったり広い為、顧客に対し展示品を見やすくすることが出来ました。

来年度に向けても合同の展示ブースで、共通のテーマ、素材、加工など事前の打ち合わせを行い、更に顧客を集め易い展示方法を考える必要があると思われる。



<出展各社のコメント>

株式会社麻絲商会

ミラノウニカへの出展が2年目となりますが、昨年の反省点を踏まえブースをオープンにした事などで多くのお客様に生地を触りピックアップして頂きました。展示会后、少しづつですが着分や価格の問い合わせ等の依頼も来ており決して満足とは言えませんが、次回に繋がる成果は多少得られたのではないかと感じられます。国内展示会も含め、今後も2年目よりも3年目とより精度を上げ継続的に出展し、認知度を高める為にアピールする機会を増やしていく事が重要だと思われまます。

滋賀麻工業株式会社

今回、2回目の出展となりました。昨年よりは 沢山のお客様に来場を頂き名刺交換、サンプルのピックアップを頂きました。

その中でも、エコ素材を取り入れた商品を探されているお客様が目につきました。海外の情報を取り入れ、今後 国内市場にも提案して参りたいと思います。今回の出展にあたり、日本麻紡績協会の多大な御支援、御協力に感謝申し上げます。

株式会社大長

展示商品をメンズ中心の生地揃え、色もベーシック（黒、ベージュ、ネイビー）中心に揃えたのが、ピックアップ点数の増加に繋がったと思います。但し、販売の中心価格は\$10～\$15で、それ以上の価格帯が多く、来年に向けて見せる展示会から販売中心の展示会への移行を考える必要があります。

ピックアップ点数が本番に繋がるとは限りませんが、とりあえずは大長の加工商品をヨーロッパのアパレルに知ってもらうこと、会社の名前を覚えてもらう初期の目標の一部は達成できたのではと思います。

主たる来場者

アルマーニ、ランバン、バルマン、ゼニヤ、トムフォード、グッチ
セリーヌ、レイス等

帝国繊維株式会社

初出展であった昨年は、様子見も兼て、加工、意匠、組織などに特徴のある凝った素材でブースを構成しましたが、値段や発注ロットの面で難しさを感じたこともあり、今回は対応しやすい素材を基本として、帝国繊維の定番、もしくはそれに準じる素材を持ち込みました。

会期中、帝国繊維のブースで商談・ピックアップを行った来場バイヤーは43社で昨年対比120%。ピックアップ総計は164点で昨年対比130%となりました。ジャパンオブザバートリーへの来場者自体が多かったことありますが、着分の請求や、日本での再商談を希望されるなど、昨年比に比べて具体的な反応が多く、手ごたえを感じた3日間となりました。



Premiere Vision Paris 2019S/S レポート

トスコ株式会社 木村 健二

2019年春夏向けプルミエール・ヴィジョン・パリは、2月13日から15日の3日間にわたりパリ郊外のヴィルバンド見本市会場で開催されました。

出展社は日本からの60社を含む、世界50カ国／1725社で前年同期比1.6%増。3日間の来場者数は54,500名で、中国の旧正月と重なった影響で微減しました。

今回の会場構成は、Hall3がLEATHER（皮革）、Hall4がACCESSORIES（服飾資材）、Hall5と6がEABRICS（服地）で4エリアに分けられ、FABRICSはさらに10のセクターに分けられました。各見本市がそれぞれ個別にトレンドの方向性を提示していた従来の手法をやめて『VVPERSPECTIVES』という業種の枠を取り払ったトレンドコーナーを新設し、集約して提案することでよりコンパクトでわかりやすい構成になったのが大きな変化でした。

1955 キーカラーは1855に引き続きエコを指針する背景もあってグリーン。緑の植物を連想させる提案が各所に散りばめられました。1855との相違点は、緑から想起させるナチュラル肝イストに、コンテンポラリー（現代的風）な要素がより加えられていること。エコロジー、サステナビリティの打ち出しはシーズンを追うごとに強まっており、今回もリサイクル、生分解性、動物愛護など様々な切り口の環境配慮素材が増強して提案されました。

弊社は4回目の出展となりましたが、ロケーションはHALL6のPREMIUM RELAXで、CELC加盟のLINEN各社に近くトルコやデンマークの綿中心の天然繊維を扱う企業の並びでした。

FORUMで展示された素材は、細番手ラミーやラミーストレッチ、リネンデニムや顔料箔デニム、オーガニックラミージャージなど5点。いずれも原糸や染色加工を差別化した日本独自の素材でした。

今回は自社工場のラミーとリネン（乾紡）を中心に昨年のコレクションに補完して、背景のある定番と新たなオリジナル試練品を加えて欲張りすぎず定数定量を踏まえて出展構成をしました。

特に原料から手掛けたオーガニックラミーについてはオーガニックがFORUM全体のテーマにもなっており興味を持たれた顧客の訪問が多かったようです。

原料から手掛けるラミー紡績としてラミーの特長をPRするとともに、リネンについてもトレーサビリティとサステナビリティを持ってモノづくりをしていることを強調しました。

歴史を有するリネン文化の欧米に商品を認めてもらい購入していただくのは容易なことではありませんが、麻素材のトレンドは一時的なものではなくライフスタイルファッションとして世界中で認知されています。時代は、環境にやさしく、持続可能で本物志向の素材を求めており、私たちの業界は未来への可能性を秘めていると思います。

会員の皆様とともに、オールジャパンで麻素材に携わる生産者の一員として、真筆な姿勢で鋭意努力して日本の麻の存在価値を高めて行きたいと思っています。

以上



中国麻紡績行業協会 紹介

CBLFTA

China Bast and Leaf Fiber Textile Association

中国麻紡績行業協会は1988年4月北京にて設立。参加企業は亜麻、苧麻、大麻（ヘンプ）、黄麻（ジュート）など植物韌皮繊維に関連する植栽、原料加工、紡績生産及び流通、科学技術、教育関連の社会团体、企業等を中心に全中国から自発的に集められた各社、各団体の組織である。

上層機関：中国国家民生部

団体形態：社団法人、会員メンバー 300 社及び団体。

中国麻紡績行業協会の運営主旨は会員メンバーに対し各種のサービスを行い、政府と企業間の橋渡しなどの役割を担う。

【業務範囲】

業界行動規定を作り、業界企業のレベルアップ、業界企業利益の維持保護、政府からの新しい政策や新技術などを伝え、麻の国内外のトレンドを研究し、マーケット情報を収集し交流を行う。

協会で各スタンダード基準を設定し、商品の技術検定の行い、麻商品の市場参入拡大に貢献すると共に、グローバルに各国同業のメンバー交流や情報交換を行い、視察、見学、国際会議など定期的な活動を行う。

<http://www.cblfta.org.cn>



2017 中国亜麻大会レポート (上海)

平成 29 年 10 月 10 日に上海にて 2017 中国亜麻(リネン)大会が、「リネンは人々のライフスタイルを変化させる」とのテーマにて、盛大に開催されました。

出席者は中国麻紡績協会(CBLFTA)より董 春興会長以下 関係者多数が出席、欧州リネン協会(CELC)からバート・デポルク会長、マリー・エマヌエル事務局長他多数が出席、日本麻紡績協会からは香山会長代理、トスコ(株)、帝国繊維(株)が出席しました。その他インドリネン工業会トーマス会長、フランス、ベルギー、インド、米国、台湾からの各代表を含め、総勢 170 名が出席しました。

会場では各国のリネン事情が報告され、中国 董会長からは中国国内亜麻市場規模の 20% UP の報告に加え、欧州原料価格の安定化、原料品質の基準化を主張し、デポルク会長からは Inform(情報提供)、Defend(品質確保)、Promote(欧州フラックス原料の宣伝)の 3 つのキーワードで欧州リネン事情が報告されました。日本からは衣料繊維市況低迷にも拘わらず、麻素材が堅調に市場に定着しつつあることなどパワーポイントを使いながら市場動向と国際連携の一層の重要性を強調しました。

概況としては欧州のリネン原料が天候要因や人件費高騰、原油高に加え、設備の維持・更新などで高騰傾向にあり、作付面積が過去 10 年間で 10% 以上拡大したものの平均販売価格は 33% 値上がりしたことが報告されました。

また上記国際会議より先立つこと 4 カ月前、上海西郊賓館にて Kingdom 社 主催の国際リネンフォーラムが開催されました。

<リネン産業の持続的成長>に向け、日本から日本麻紡績協会、(株)AKAI、滋賀麻工業(株)、帝国繊維(株)が参加、各種問題点を討議し、リネン市場の持続的発展と革新に向け国際的連携をより一層強める方向で意見が一致しました。



会員企業紹介

ミマス株式会社

取締役社長 広瀬 嘉昭

当社は昭和23年に国策に基づく新紡グループの一員として、創業し昭和30年代後半に「紡績の歴史は操短の歴史」と言われる状況を克服すべく形状変化糸系中心の商品展開に経営資源を集中し、加えて同様の目的で昭和50年代後半に麻混紡糸の分野に進出し、現在に到っております。

平成14年9月の火災にて紡績工場部門が焼失いたしました。当時の最大の経営目標である「日本国内で最後まで操業を続ける紡績」を実現すべく、最新鋭の設備に一新し、コスト競争力の強化、品質管理のより一層の徹底、第三の差別化商品の開発、及びユーザー各位の要望に応えるべく綿密な情報交換に基づく的確な在庫リスクの負担等々、営業、工場一体となって上述の目標実現に取り組んでおります。

追記となりますが、一層の販売力強化を目指して、6月中にも浜松事務所を開設いたします。

資本金	9千万
従業員	48名
事業内容	綿、麻及び化合織特殊糸製造（紡績業）販売並びに倉庫業
本社・工場	三重県度会郡玉城町佐田626番地
大阪事務所	大阪府大阪市中央区安土町2丁目4番6号
東京事務所	東京都中央区日本橋人形町1-1-6松和人形町ビル6階



会員企業紹介

KB ツヅキ株式会社

代表取締役社長 武内 貞継

当社の紡績方法は、綿麻など天然繊維の紡績には最適な、世界で唯一の TNS（ツヅキ・ニュー・スピニング・システム）です。

スライバーの段階で高温多湿の熟成室に入れ、天然繊維がそれまで受けてきたダメージを回復させます。そこから一気に紡績を行いますので、ケバ立ちが少なく、抱合力の強い糸になります。粗紡工程を省略していますので、コスト競争力もあります。

五千年以上にわたり、人類が衣料の中心として使用してきた天然繊維は、身体に安全・安心であるだけでなく、自然にもやさしく、まさに現代社会が求めているのであると言えます。

合成繊維は、天然繊維に追いつけ・追い越せと研究を続けてこられた結果、現在の消費者の方々は素材を確認するという事もなくなり、「暖かい」、「涼しい」、「消臭」などの機能で商品を選んでいるように感じます。

当社は綿、天然繊維を新しい素材として進化させ、将来の素材として創造していくことをスローガンに掲げ、開発に力を注いでいます。小さな会社ではありますが、年間約1億円の開発投資を継続的に実施しています。

そんな中、天然繊維に洗濯を繰り返しても取れない機能加工を付与する技術を開発し、特許を取得しました。例を上げますと、まずは綿100%の素材で、洗濯を100回繰り返しても劣化（固くなる・白化・ケバ立ち・強度の低下等）を大幅に抑制し、柔らかさを長持ちさせる加工です。

その上に、合繊が得意としていた機能加工を、天然繊維にしっかりと固着させることができるようになりました。しかも、練り込み式の合繊と違い、天然繊維の表面に加工剤がしっかりと固着していますので、即効性と大きな効果が期待できます。問題だった洗濯耐久性を解決したことが大きな成果です。

紡績技術と加工技術、一環で生産するメーカーだからこそできる未来の天然繊維糸を作り続けて参ります。



会員企業紹介

越前屋多崎株式会社

代表取締役 有田 正彦

越前屋多崎は慶応元年（1865年）糸問屋として創業して以来150年余りの歴史を歩んで参りました。現在に於いては、主に制服の附属品を取り扱っており自社工場では、金、銀モール織物と製紐関係を生産・販売し、麻素材関連の各諸官庁制服及び民間企業ユニフォームの附属品を供給させて頂いております。

今後も先人が培ってきた伝統と信用を守り、未来へ向けてのチャレンジ精神を忘れずに皆様に信頼される企業であり続ける様尽力して参ります。

<会社概要>

商号	越前屋多崎株式会社
創業	1865年（慶応元年）
組織変更	1944年（昭和19年）
代表者	代表取締役社長 有田正彦
本社	〒104-0031 東京都中央区京橋1-1-6 越前屋ビル6F 営業部 TEL. 03（3272）4041（代） 経理部 TEL. 03（3273）8846 FAX. 03（3272）4048
川口配送センター	〒333-0842 埼玉県川口市前川2-32-24 配送部、生産部 TEL. 048（260）1600 FAX. 048（267）6633
岐阜工場	〒509-7403 岐阜県恵那市岩村町748-1 TEL. 0573（43）2567
資本金	1,200万円
取扱い商品	制服制帽附属品、釦類、徽章、服飾品、縫製資材、装備用品等



会員企業紹介

株式会社おおまえ

代表取締役 大前 清司

<代表者挨拶>

弊社は、滋賀県東近江市に位置し「麻の産地」と言われております。

おおまえは、麻だけではなく綿・ウール・絹・合繊繊維などを使い、お客様に提案しご希望の生地を作らせて頂いております。

弊社は、天然染料（柿渋液 100%）「柿渋染・暮れ染」で染物をしております。

ハウスでの天日発色ですので時期や季節（日照時間）により色等が変わり、1品物との意味合いもあるため、多くの愛好者がおります。暮れ染は柿渋の持つ鉄分を吸着する性質を利用してグレー系の色になる事からその名になりました。【イメージとしては、柿渋=夕日 暮れ染=日暮れ】

最近では、「ビスコース加工」を再度始め、非常にさわやかでシャリ感のある糸を作っています。

ビスコース加工と言うのは、綿などの素材を麻のように似せる加工の事を言います。

弊社はチーズ仕上げとなっております。昔はギマ加工とも呼ばれていました。

その他近隣企業様と共同開発し水撚り加工等も行っています。

皆様もご存知の通り麻糸は、乾燥したまま追燃するのは非常に撚りにくく困難な物です。

そこで麻の持つ水に濡れると強くしなやかになる特性を活かし、追燃のしやすい環境を整え安定した撚りを行うことができました。

お客様のご意見ご要望をお聞きしながら各産地の企業様と手を取りお客様の満足のいく生地を企画販売させて頂いております。

まだまだ、色々な開発等をしていく所ではありますが日本の技術を世界へ発信していく企業を目指しています。

最後に、皆様のさらなる発展を祈願しご挨拶とさせていただきます。

<会社概要>

創業	昭和 28 年 12 月 28 日
資本金	1,000 万円
従業員	4 名
業務内容	生地企画・柿渋染・糸加工 (水撚り加工・ビスコース加工)





スペシャルレポート

April 23rd, 2018

Safilin Mr.Denoyelle

1778年に創業したSafilin社は、おそらく現存する麻紡績関連企業で世界最古の企業です。当社は創業以来、サルモン家によって経営されており、今もなおその子孫によって全株式が所有されています。

800人の労働力を有する当社は、2つの工場で2種類の糸を生産しています。

ドライスパン並びにセミウェットスパンにて、1～9.5番手(毛番手)までの産業資材、並びに家具・生活資材用、また衣料用を中心とした6～50番手(毛番手)を潤紡式で生産しています。

弊社で使用するすべての亜麻原料はヨーロッパ産で、その90%は自国フランスから供給され、ノルマンディー地方のリネンの最適栽培地で生育されているものです。使用される全ての原料は、栽培された農場までトレースすることができ、独自の原料管理体制を整えております。

“Safilin”の生産品質は欧州で知られており、その多くはプレタブランドのコレクションに採用、また先染細番手糸は著名高級シャツに数多く使用されています。

また、“持続的成長”をキーワードとした戦略を強く取り組んでいます。

弊社は、ヨーロッパの品質基準でブラジル、メキシコ、南アフリカ、パキスタン、さらにはバングラデシュなどのアジア諸国の顧客に商品を提供しています。

またインド、トルコ、日本には、既存の強力な顧客基盤があります。とりわけ日本は、サフィリンの品質水準を高く評価し、長年に渡り重要な市場であります。

2018年の最重要課題は、増大し続ける顧客需要を引き続き満たすことです。

ただし今年(2017年)の主要原産国(フランス、ベルギー、オランダ)の収穫高が前年の30%減量となり厳しい年であることが分かります。

直面する原料不足対策として、弊社は原料在庫を生産のほぼ1年分確保し同等品位を維持確保する体制を整えています。

そうすることにより、Safilinは製品品質維持並びに、安定供給を保証します。

一方、ヨーロッパ市場ではリネン企画が引き続き活発であり、またリネン素材の素晴らしさがグローバル市場で高い需要を継続させています。

弊社はリネン糸の新用途開発だけでなく“一带一路構想”により、中国内販市場を中心とした新たな市場の到来により、今後の商機拡大が非常に楽しみでなりません。



トスコ株式会社 創立 100 周年

代表取締役社長 根本 圭司

トスコは1918年3月に東京丸の内の帝国鉄道協会において創立総会が開催され、100年の時を刻んでまいりました。

創業以来、幾度となく存亡の危機に直面してまいりましたが、これまでお支え頂きましたお取引先の皆様方に改めて御礼申し上げます。

万葉の昔から江戸時代まで、麻は家庭内の衣料の中心にあり、麻の収穫から麻糸の紡出、布の製織に至るまでの重労働を女性が担うという様相で、「ヘソクリ」の語源は「綜麻繰る」からきたものと言われております。

当社はラミー（苧麻）原料の品質改良・栽培から紡績・織布・染色整理までを一貫して営み、日本古来から続く麻の衣料文化を近代工業化によって昇華させるべく注力してまいりました。

ファッションとは文化であります。環境に優しい麻繊維を通じて人々の生活心情をより豊かにしていくことが我々の企業理念に適うものであり、世界で唯一のオーガニックラミーの認証取得もその一環であります。

当社は約10年前に我々のコアコンピタンスとは何かを考え、我々は麻の「紡績屋」に原点回帰し、川中の部門は産地企業の皆様と協業するのがベターとの選択を致しました。その上で、三原工場の製造機械設備の充実を図りつつ、世界で唯一のオーガニックラミーの認証取得やP Vへの出展等を行い、国内産地の皆さまの求める付加価値のある麻糸や麻混紡糸の供給を目指しているところであります。また、海外に依存するリネン糸に関しては、仏国の原料メーカー並びに中国のリネン紡績メーカーと連携し品質管理とトレーサビリティ管理に努めています。

実は、中学受験向け塾のテキスト中に、日本地図の伝統的繊維産地と天然繊維の写真を結び付ける設問があり、当社はラミー畑の写真を20年以上前から提供しています。

J-クオリティ認証制度の拡がりもそうですが、我々はこれらの日本の伝統産業が末永く続くことを願ってやみません。

我々は、ニッチな麻の紡績屋として、麻の伝承者として引き続き国内生産を基軸とし、皆様と協業して参りたいと思いますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

以上



< MEMO >

日本麻紡績協会 会員企業一覧 111 社、1 協同組合 (五十音順)

- ア 青葉株式会社
株式会社 AKAI
株式会社アクシス
浅記株式会社
朝日加工株式会社
旭紡績株式会社
アトモスフェール・ジャポン株式会社
株式会社アマックスコーポレーション
アンドー株式会社
今村株式会社
岩田工房
栄光染色株式会社
越前屋多崎株式会社
エップヤーン有限会社
株式会社エヌ・ピー・アール
近江織物株式会社
株式会社大志茂
株式会社おおまえ
大森撚糸株式会社
小千谷織物同業協同組合
- カ カネマサ莫大小株式会社
有限会社金丸整理工業
甲株式会社
有限会社川登
株式会社カンセン
株式会社関東小池
菊高産業株式会社
岐セン株式会社
株式会社北国生活社
株式会社キョウワソーイング
株式会社金原
グロリア株式会社
桑村繊維株式会社
KB ツヅキ株式会社
株式会社ケンランド
江東製織株式会社
興和株式会社
有限会社小啓修整織物
- サ サイボー株式会社
澤染工有限会社
株式会社三幸
株式会社三幸ソーイング
株式会社三和リネン
有限会社シービープランニング
滋賀麻工業株式会社
信友株式会社
島村メリヤス株式会社
株式会社ジャスカ
聖天株式会社
新成物産株式会社
新陽株式会社
鈴木晒整理株式会社
有限会社鈴由商店
装研株式会社
- タ 株式会社ダイイチ
大恒株式会社
株式会社大長
大和染工株式会社 (今治)
高島株式会社
株式会社タグチ
株式会社武田商店
株式会社タケミクロス
タッカ株式会社
辰野株式会社
田村駒株式会社
蝶理株式会社
帝国繊維株式会社
有限会社テキスタイルベガ
株式会社テザック
東興産業株式会社
稲京株式会社
東洋繊維株式会社
東洋物産株式会社
東和株式会社
株式会社トーホーユニ
トスコ株式会社
- テ 殿岡服飾工業株式会社
豊川テキスタイル株式会社
豊田株式会社
- ナ 中伝毛織株式会社
中村株式会社
有限会社ナカモリ
西本株式会社
西山繊維株式会社
日新実業株式会社
ニット技研
- ハ ハイランドMP 株式会社
服部テキスタイル株式会社
平岡織染株式会社
株式会社廣瀬商会
廣瀬又一株式会社
藤居織物工場
ブルーミング中西株式会社
株式会社穂高商事
- マ 株式会社麻絲商会
株式会社マルキン
丸佐株式会社
丸進工業株式会社
株式会社丸萬
三重ユニフォーム株式会社
株式会社三崎
ミマス株式会社
未来テクノ株式会社
株式会社武蔵富装
株式会社むつ縫製
森菊株式会社
- ヤ 山甚物産株式会社
株式会社ユニウエル
- ウ 株式会社リード商会
有限会社リネット
リネンハウス株式会社
- エ 株式会社ワールドプロダクションパートナーズ

会員企業ネットショップ URL 一覧 (五十音順)

株式会社エヌ・ビー・アール	http://cadeauya.nbr.jp/
株式会社おおまえ	http://www.oomae.co.jp/main/goods/bagmenu01.htm
KB ツツキ株式会社	http://www.rakuten.co.jp/t-z/
株式会社北国生活社	http://www.amanosato.jp/
有限会社シービープランニング	http://studioecru.shop-pro.jp/
株式会社タケミクロス	http://www.takemicloth.co.jp/
辰野株式会社	http://tatsuno-uniform.net/
帝国繊維株式会社	http://www.linenshop.jp/
株式会社ダイイチ	http://e-uniform.jp/index.php
トスコ株式会社	http://ramino.biz/index.html
有限会社ナカモリ	http://www.rakuten.co.jp/nakamori
ブルーミング中西株式会社	http://www.handkerchief-gallery.com/
ブルーミング中西株式会社	http://www.room-recipes.com/
株式会社麻絲商会	http://www.mashi.co.jp/
森菊株式会社	http://www.rakuten.co.jp/kijistore/index.html
有限会社リネット	http://www.lin-net.com/shop_linnen.html
リネンハウス株式会社	http://www.linenhouse.jp/

日本麻紡績協会

〒 103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-1-10

TEL 03-3668-4641

FAX 03-3668-4642

Email jp-asabo@cb.wakwak.com

URL <http://www.asabo.jp/>

平成 30 年 5 月 17 日発行

本誌表題について

「麻につるる」は、ことわざ「麻につるる蓮（よもぎ）」に由来しています。

ことわざの意味は、「曲がって生えやすい蓬でも、真っ直ぐに生える麻の中で育てば、曲がることなく自ずと伸びる」ということです。

転じて、善良な人々に交われば、殊更に教育をしなくとも自然に善良な人に育つ、という意味に用いられます。

日本麻紡績協会におきましても、麻に携わることを生業（なりわい）としている我々は、このビジネスに打ち込んでいる、それだけで真っ直ぐなどビジネス人生を描いて、成長していくことができる、そういう想いと願いを込めて、当協会誌のタイトルといたしました。



ノルマンディー地方のリネン畑

日本麻紡績協会

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-1-10

TEL: 03-3668-4641

FAX: 03-3668-4642

Email: jp-asabo@cb.wakwak.com

URL: <http://www.asabo.jp/>